

分析化学のチャネル



珠 玖 仁

分析化学は、大学で学ぶことのできるさまざまな化学のなかで最も基礎的で歴史のある科目のひとつに位置づけることができると思います。教科書も数多く出版されていますが、長い歴史であるが故に、教科書ごとに構成も内容も多岐にわたります。私が学生の頃も、大学で指定された教科書を一冊勉強して、分析化学をしっかり学んだ、という実感はまったくありませんでした。電気化学の研究室に入って自身の専門に没頭していく過程で、分析化学とのチャネルのようなものができ、日本分析化学会にも入会し、アメリカ化学会の Analytical Chemistry 誌も非常に身近な存在となっていきました。そして分析化学という学問全体像の奥深さに改めて畏敬の念を抱きはじめ、今日に至るまでその全貌はまったくつかめないどころか、その領域は確実にひろがりつつあると言えます。

日本分析化学会には、分析化学そのものを研究する研究者はもちろんですが、私の例に限らず、別の専門がありながら分析化学を深く修める必要に駆られて入会した会員も多くいるはずです。そして日本に限らず留学生を中心にさまざまな国籍をもつ研究者が、学会の趣旨に賛同して会員となり、分析化学を盛り上げているのが現状かと思います。私が快く迎えてもらえたように、すべての専門が異なる研究者にとって、分析化学の敷居が決して高くないことを望みます。分析化学のチャネルを潜在的にもつ研究者の数が現在の学会の会員数よりも多いことは疑う余地は無いと考えております。

私を迎え入れてくださったのは、たまたま東北支部でした。日本分析化学会の東北支部では、年3回役員会を開催するなど活発な活動が行われており、しかも顔と顔を突き合わせてしっかりと意見を交わす機会があるということは、少なくとも私の所属する他の学会の「東北支部」と較べてみても大変恵まれた活動環境にある、と日ごろから感じている次第です。実際に私自身も支部会員の皆様と研究討論する機会に恵まれ、時には研究以外の悩みの相談などにも乗っていただき何度も救われた思いをしてきました。改めて支部の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、少しでも東北支部のお役にたてるよう、これからも微力ながら貢献していく所存です。

(Hitoshi SHIKU, 東北大学大学院工学研究科, 日本分析化学会東北支部役員)